

令和3年度 学校評価の結果について

今年度の東陽中学校の学校評価を、教職員、生徒、保護者、学校関係者（東陽小中学校コミュニティースクール委員の皆さん）の4者にいただいた結果を公開しています。なお、学校関係者の方々には年間を通して評価していただいています。ご協力いただき誠にありがとうございました。なお、アンケート結果についてのお尋ね等ありましたら、東陽中学校（65-2650）までご連絡ください。

<考察及び対策等について>

① 教職員の結果から

○校内委員会の開催、外部機関と連携した生徒指導・支援、地域の歴史や伝統文化の継承、生徒の読書活動の充実、食事のマナー指導、積極的な情報発信、地域人材の活用、いじめの未然防止・早期発見解決などの項目において高い値が見られた。

▲見通しや振り返りを意識した授業づくり(2.93)、発問や問い返しなどの言語活動を活性化させる授業スキルの向上(2.86)と、校内研修に関わる項目で上期を下回り、3.0ポイント以下という結果になった。

▲わずかにポイントが上昇した(2.36→2.64)ものの、依然として読書量は低い傾向が続いている。

※生徒の授業の楽しさ、魅力度に関する回答が2.73、保護者の授業の楽しさ、わかりやすさに関する回答が(2.82)と、教師の学び易さを考えたUDの視点に立った授業づくりのポイント(3.36)、単元のゴールの姿を明確にした授業づくり(3.14)と意識の差があり、今後この結果を真摯に受け止め、さらなる授業改善に学校総体で取り組んでいきたいと思ひます。

② 生徒の結果から

○学習規律や挨拶、規範意識は高い評価であった。

○キャリア教育への満足度、交通安全の意識が高かった。

○1、2年生の図書の出し出し数が多いことから、読書活動の充実として結果に表れている。

▲1年生において、家庭学習に課題が見られ、決まった時刻の就寝という基本的な生活習慣にも課題がある。

▲授業中にじっくり考え自分の意見を持つ(2.97)、自分に考えを発表したり考えを深めたりする(2.77)、授業を楽しく意欲的に受けている(2.73)先生や友だちに質問する(2.52)という項目について評価が低く、すべての項目で上期を下回った。特に、1年生において顕著に結果が表れている。

※昨年同様、生徒の授業への意欲や充実感が上昇していませんでした。コロナ禍で活動の制限やリモート授業の実施などがあったこともあるのかもしれませんが、生徒主体の魅力的な授業づくりについて、次年度も引き続き取り組んでいく必要があると考えています。

※コロナ禍ということで、学校外に出て活動する機会が少なくなりがちでしたが、次年度はボランティア活動や職場体験など、生徒会とも連携しながら数多くの体験的な活動を増やしていきたいと思ひています。

③ 保護者の結果から

▲全体的に上期から大きな変動はなかったが、家庭学習の習慣(2.50)、読書の習慣(2.27)、規則的な生活習慣(2.73)、携帯電話やスマートフォン、ゲーム使用(2.28)などの項目において、課題意識を持っておられた。

※学力の向上、定着には基本的な生活習慣の確立や必須です。今後も学校での指導と併せ、家庭教育学級の実施や地区懇談会などを通して、家庭と連携しながら子供たちの健全育成に取り組んでいきたいと考えています。

※学校の課題についてのご意見をいただき、大変ありがとうございました。全職員で真摯に受け止め、課題解決に向けて一丸となって取り組んで参ります。

④ 学校関係者の結果から

○概ね、高い評価をいただいた。特に、地域とともにある学校づくりに向けた地域人材の活用に好評価をいただいた。

▲不登校等の学校の課題について、ご心配をいただいていることに有り難いのと同時に、迅速な解決ができない状況について申し訳ない。これからも関係機関等とも連携しながら学校総体で取り組んでいく。

※子供たちの日々の頑張りや、地域学校協働活動の成果を評価していただき有り難いです。コロナ禍で手探りの学校運営だった部分もありましたが、常に協力するお気持ちで学校を見守っていただいていることに深く感謝いたします。今後も、貴重なご示唆と変わらぬご支援をお願いします。